

第2学年学級活動(2)指導案

日 時：令和○年○月○日(○)○校時

学 級：第2学年○組○名

場 所：2年○組教室

授業者：○○ ○○

1 題材 「自分のタブレットとじょうずにつきあうには」

(出典：「ネットリテラシー授業プラン」を参考に改変)

学級活動(2) ア 基本的な生活習慣の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童の多くが配付された1人1台端末は、比較的上手に使いこなすことができ、様々な教科学習の中で使ったり、時には1人1台端末を用いて学習を進めたいと自ら発言したりすることもあり、児童の身近な学習用具として定着しつつあるのが現状である。一方で、家庭への持ち帰りを前に、大人の目の届かないところでも自律して使用できることが期待されるため、一人でも上手に使えるためのスキルを身に付ける必要がある。

(2) 題材設定の理由

1人1台端末を家庭へ持ち帰ったときに、いつも大人の目の届くところで使用できるとは限らない。むしろ、児童が自律的に使用できることが重要となってくる。保護者や指導者といった大人が、1人1台端末を使用する際の約束を決めるよりも、使用する児童自らが、自身の生活状況と照らし合わせて、使用する約束を決めた方が、自律的な思考を促しやすいという研究結果もある。

そこで、本時では、1人1台端末を使用する際の「マイ・ルール」を決め、使い過ぎないための工夫を児童自ら考えることで、自律的に使用できるようにする。

3 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
自己の身の回りの諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、基本的な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の身の回りの諸課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、進んで課題解決に取り組み、他者と仲よくして人間関係を形成しようとしている。

4 本時のねらい

タブレットの使い方を知り、メリットとデメリットを考え、上手につきあう方法を見つけ、日常生活に生かそうとすることができるようにする。

5 本時の展開

時間	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
導入(つかむ)	<p>1. ふだん、インターネットでどのようなことをしているかを全体で振り返る。</p> <p>2. 使っていて困っていることはどんなところか考える。</p> <p>3. めあてを提示する。</p>	<p>○学校のタブレットでどのようなことに使っているかたずねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強 ・プログラミング ・アプリ <p>○家のパソコンやスマートフォンはどのようなことに使っているか、また、どのようなことができるのかたずねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画 ・ゲーム ・LINE ・何でも調べることができる ・思ったことを、タブレット上でできる(再現できる) <p>○タブレットやパソコン、スマートフォンを使っていて、そのよいところはどんなところか考える。</p> <p>○困ったことがないという児童も多くいることが考えられる。よいところばかりだと、どんどんタブレットを使ってよいと、先生やお家の人に言われていると思うが、どんなときに使うのをやめるように言われているのか問いかける。</p>	
<p>タブレットとじょうずにつきあうには、どのようにしたらよいか考えよう</p>			
展開	<p>4. 教材文を読む。</p>	<p>○指導者が範読する。</p>	
<p>2年生のゆういち、クリスマスプレゼントにタブレットを買ってもらった。それがうれしくて、友だちのよしおと近くの広場でいっしょにタブレットで動画を見たりゲームをしたりすることにした。すべり台のところにすわりこんでタブレットをつかっていた。小さい子があそびに来ても気づかず、ほかの友だちから「あそぼう」といわれてもむしして、やりつづけた。広場からタブレットを見ながら帰っていたので、もう少しで車にひかれそうになったが、気にせず見つづけた。</p> <p>その日、ゆういちはお家の人に見つからないように、夜の12時までタブレットを見つづけた。</p> <p>次の日、ゆういち、体ちょうがわるくなり、学校を休んだ。</p>			

(やる)	5. 問題点を見つけ出す。 (ワークシート 2)	○「ゆういち」の何がよくなかったのか問いかける。 感情を確認	
	(見つける)	6. タブレットと上手につきあうための方法を検討する。 (ワークシート 3、4)	○「ゆういち」は、タブレットをじょうずに使うためにどのようにすればよいか選択肢の中から選び、考えた理由をワークシートに書くようにする。 対応を検討 選択肢 1. お家の人に、見ないときはタブレットをあずかってもらい、見るときにかえしてもらう。 2. お家の人といっしょにルールをきめて、きちんとまもる。 3. たのしければいいので、自分のすきな時間にすきなようにつかう。 4. そのほか ○なぜその方法を選んだのか、その理由を交流する。 ・多様な意見を児童から引き出すことによって、それぞれ家庭の事情や環境、考え方が異なってよいことを認める。話し合っていく中で、「自分なら」に置き換えて考えられるよう支援していく。 ○「じょうずに使う」という言葉の中で、「じょうず」とはどのような捉えなのか、児童の多様な考えを表出できるようにする。 ・交流する中で、共通理解を図る。

<p>まとめ(決める)</p>	<p>7. タブレットを上手に使うためのマイ・ルールを決める。 (別紙：ワークシート)</p> <p>インターネットで行動するときの三つの合言葉を確認する</p>	<p>○児童の言葉で「タブレットをじょうずにつかうためのマイ・ルール」を考えられるようにする。</p> <p>行動の準備</p> <p>○インターネットで行動するときは、「立ち止まる」「(どうすればいいか、安全かどうか)考える、「(困ったときは)大人に相談する」</p> <p>○学習後、学びを家庭に伝える通信を発行する。</p>	<p>自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、計画を立てようとしている。【態度】</p>
-----------------	---	--	---